

令和2年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会
議事次第

日時：令和2年 9月17日(木)午後4時～5時

場所：WEB開催

報告事項	資料	備考
1. 令和2年度 第1回小児・AYA部会 議事要旨(6月18日)	資料1	百名部会長 P2
2. 令和2年度 第2回「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 議事要旨(7月15日)	資料2	銘苅副部会長 P5
3. 小児・AYA部会 委員一覧	資料3	百名部会長 P7
4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧	資料4	銘苅副部会長 P8
5. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書について	資料5	銘苅副部会長 P9
6. 沖縄県共通の「がんと生殖カウンセリングシート」について	資料6	銘苅副部会長 P11
7. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書と「がんと生殖カウンセリングシート」の周知状況について	資料7	銘苅副部会長 P12
8. その他		
<p>≪協議事項≫</p> <p>がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療</p>		
1. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」について		
(1)協議会の報告	資料なし	増田委員
(2)沖縄県内の各医療機関での研修会について	資料8	銘苅副部会長 P13
(3)今年度の琉大における医療者向け研修会の企画について	資料9	銘苅副部会長 P14
(4)琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか	資料10	銘苅副部会長 P15
(5)妊孕性温存に関する経済的支援について	資料なし	増田委員
(6)その他		
2. 病院・院内学級・原籍校との連携について		
(1)小児・AYAがんの保護者向けパンフレット(仮名)の作成について	資料11	百名部会長 P16
(2)その他		
3. 今後の開催日程について	資料なし	百名部会長
第3回:12月17日(第3木曜)		
第4回:令和3年3月11日(第2木曜)		
時間:全日程、午後4時から5時開催(琉大病院がんセンター)		
*第3回・4回 WEB開催の可能性有		
4. その他		

令和 2 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 2 年 6 月 18 日（木） 16：00～17：00

場 所：WEB 会議

構 成 員：16 名

出 席 者：11 名

百名伸之(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、島袋優子(琉大病院看護部)、太田守克・(代理 宮城班長 沖縄県教育庁健体育課)、當銘保則(琉大病院整形外科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCL S)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、友利敏博(森川特別支援学校)、増田昌人 (琉大病院がんセンター)

欠 席：5 名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、仲里可奈理 (沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、

陪 席 者：2 名

石川 千穂(がんセンター事務)

浦崎 美由貴(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 小児・AYA 部会 委員一覧

百名委員より、資料 1 に基づき委員の説明があった。

2. 令和元年第 4 回小児・AYA 部会 議事要旨(3 月 2 6 日)

百名委員より、資料 2 に基づき、説明があった。

【協議事項】

1. 部会委員の追加について

百名委員より、資料 1 に基づき、小児病棟看護師長の島袋委員が新委員として就任について説明され、承認された。

2 がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療

「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」について

(1) 協議会の報告

増田委員より、資料 3 に基づき、「令和 2 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会」での決議事項が報告された。

(2)各拠点病院窓口担当医の選任状況について

増田委員より、資料4に基づき、各拠点病院窓口担当医の選任状況の説明があった。

(3)担当医による会議について

銘苅委員より、資料5に基づき担当医による会議で話し合われた内容が報告された。

(4)沖縄県内の各医療機関での出張研修会について

銘苅委員より、拠点病院において、医師やメディカルスタッフ向けの妊孕性温存療法研修会が7月から9月に行われる旨、説明があった。またそれとは別に、血液内科、乳がん、脳外科などの研究会等を対象として妊孕性温存療法研修会を銘苅委員の方で行う案が出され、承認された。研修会について次回も引き続き協議されることとなった。

(5)今年度の院内医療者向け研修会の企画について

次回、協議されることとなった。

(6)沖縄県共通の妊孕性温存の説明文について

銘苅委員より、各拠点病院の妊孕性温存療法担当医による会議の中で、妊孕性温存療法の周知に関して、下記のように協議・決定された旨説明があった。

○それぞれの病院の電子カルテに県内共通の説明文書をいれて頂き、すべての男性患者および0～50歳の女性へ妊孕性温存療法についての説明がされること

○共通紹介文を同じく電子カルテに入れて頂き、がん治療担当医から、琉大への紹介が積極的に、スムーズ行える環境を整えていくようになった

○紹介後も、フィードバックとして症例検討会も開催される

3.AYAがんの集約化について

増田委員より、資料8に基づき、院内がん登録集計書(小児・AYA世代のがん登録数とその推移)について説明があった。

また、増田委員より、進学や就職、結婚等、社会生活の観点からの集約化について意見が求められた。百名委員より、がん種も様々なので年齢によつての集約化は難しいだろうとの意見があった。次回、引き続き協議される。

4.病院・支援学校・在籍校との連携について

百名委員より、資料9に基づき、小児・AYA世代のがん患者さんの学校生活の中での問題点・今後の課題が説明された。友利委員より、特別支援教育コーディネーター(施設によっては教育相談係)の存在が紹介された。コーディネーターは相談の内容によって、ピアサポーターや福祉サービス等、支援に関係する担当者へつなぐことができるので、相談がある場合、コーディネーターへ支援をお願いする流れが適切ではないかと提案があった。まずは学校の方へ声掛

け・情報共有し、支援の必要性を仰って頂き、そこから森川とも連携して頂ければ、との意見があった。百名委員から、システムはあるようなので連携していくことが課題。情報をきちんと患者さんへ伝え活用できればとの発言があった。増田委員より、外来の際や入院時に、復学後もサポートできるシステムがあることを紹介できるパンフレットなどはあるのか確認があり、琉大でも南部医療センター・こどもセンターでも無いので、支援案内の為のパンフレットを作成することが決議した。

8. 今後の開催日程について

次回以降開催は下記のようになった

第2回：9月17日(第3木曜)

第3回：12月17日(第3木曜)

第4回：令和3年3月11日(第2木曜)

時間：全日程、午後4時から5時開催

場所：琉大病院がんセンター（新型コロナウイルスの状況によってはWEB開催）

令和2年度 第2回がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療
「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG
議事要旨

日 時：令和2年7月15日（水） 16：00～17：00

場 所：「Zoom」を用いたWEB会議

出席者：7名

野里栄治(北部地区医師会病院 医局長・外科外来医長)、大畑尚子(県立中部病院 産婦人科副部長)、池宮城梢(那覇市立病院 産婦人科部長)、中上弘茂(県立八重山病院 産婦人科部長)、石川裕子(県立宮古病院 産婦人科医長)、銘苺桂子(琉大病院 周産母子センター教授)、増田昌人(琉大病院がんセンター長)

陪席者：1名

石川千穂(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 第1回WG 議事要旨

資料1に基づき、銘苺委員より報告があった

2. 令和2年度第1回 小児・AYA部会 議事要旨 (6月18日)

資料2に基づき、増田委員より報告があった。

【協議事項】

1. 拠点病院および診療病院において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか。

銘苺委員より、前回協議で、妊孕性温存療法についての説明文書や連携カウンセリングシートを各病院の電子カルテに取り込んでもらうことになった旨の振り返りがあり、委員へ取り込み状況と、連携カウンセリングシートの内容についてがん治療の医師から問合せなどはなかったかの確認があった。那覇市立病院はカルテの取り込みと周知がまだの旨報告があり、中部病院は現在手続き中、他病院は取り込み済みとのことだった。

2. がんに関わる全ての医師に対する院内研修会の開催について

銘苺委員より妊孕性温存療法の啓発のため、資料4のような日程で、各病院での研修会が開催される旨説明があった。拠点病院の後は、がん登録を行っている県内の病院や、小児・AYA世代を扱っている各学会(乳がん・脳外科・血液・小児がん等)でも啓発活動を行うこととなった。那覇市立病院の池宮城委員より、新型コロナウイルスの影響で研修会開催が可能か確認中との報告があった。

3. 琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよい

か。

銘苺委員より、当初は説明書を電子カルテに取り込み、がん治療を紹介の際にはがん治療医から琉大へ電話を頂くこととなっていたが、各担当医の負担が少ないように、連携カウンセリングシートを作成した経緯が説明された。がんのカウンセリングの際には電子カルテに取り込んだ同シートを使用して琉大へ紹介が行われることが再確認された。

4. 症例検討会について

銘苺委員より、県内病院で啓発活動を行いながら、症例が集まってきたところで、症例検討会を開始できればとの発言があった。開催方法について、WEB開催か直接その施設に向かうかは後ほど検討する予定とのことだった。

5. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

銘苺委員より、予算立ち上げを検討したいと沖縄県保健医療部健康長寿課の方からお話があった旨報告があった。また、増田委員より、沖縄県のがん対策推進条例を改訂することで助成金が付くための働きかけをしていく旨の発言があった。今月、来月と町村長を個別に訪問するので、医療補助について話題にし、最終的には市町村と県とで半分ずつの助成して頂くひな形を作る方向でいるとのことだった。

6. 次回WG開催日程について

各病院の研修会が終了した後、10月14日(水)16時からZOOMにて開催と決定した。

小児・AYA部会 委員一覧

令和2年4月現在

NO.	役職名	氏名	所属	役職	備考
1		朝倉 義崇	県立中部病院	血液・腫瘍内科部長	
2		大城 一郁	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	血液・腫瘍内科部長	
3		比嘉 猛	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	小児科部長	
4		伊良波 史朗	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	放射線科副部長	
5		佐久川 夏実	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	
6		友利 敏博	森川特別支援学校	学校長	
7		金城 敦子	がんの子どもを守る会 沖縄支部	幹事	
8		太田 守克	教育庁保健体育課	課長	
9		仲里 可奈理	沖縄県保健医療部健康長寿課	がん対策班主任(技術)	
10	部会長	百名 伸之	琉球大学病院	小児科 講師・診療教授	
11		浜田 聡	琉球大学病院	小児科 助教	
12	副部会長	森島 聡子	琉球大学病院	内分泌代謝・血液・ 膠原病内科学講座 准教授	
13		島袋 優子	琉球大学病院	小児科看護師長	
14	副部会長	銘苅 桂子	琉球大学病院	周産母子センター 教授	
15		當銘 保則	琉球大学病院	整形外科学講座 准教授	
16		増田 昌人	琉球大学病院	がんセンター長	
		石川 千穂	琉球大学病院	事務員	

拠点病院等のがん患者における生殖機能の温存に関する担当医

令和2年5月現在

NO.	氏名	所属	
1	野里 栄治	北部地区医師会病院	医局長・外科外来医長
2	大畑 尚子	県立中部病院	産婦人科 副部長
3	池宮城 梢	那覇市立病院	産婦人科 部長
4	中上 弘茂	県立八重山病院	産婦人科 部長
5	石川 裕子	県立宮古病院	産婦人科 医長
6	銘苅 桂子	琉球大学病院	周産母子センター 教授

がん患者さんのための にんようせいおんぞんりょうほう 妊孕性温存療法 に関する説明書

～がん克服後に子供をもつことを考える～

いりょう 医療の進歩によって、がんを克服できることが多くなってきました。この説明書では、がんを乗り越えて後に子供をもてるようにするにはどのような方法があるのか、がん治療前に知っておきたいことについて説明します。

1. にんようせい 妊孕性とは

「にんようせい 妊孕性」とは、「にんしん 妊娠のしやすさ」を指します。

男女とも、かれい 加齢によって妊娠しにくくなります。こ

れを にんようせい 妊孕性が低下する、といいます。男性は緩

やかに低下しますが、女性は 35 歳ころから急激に低下します。



2. がん治療による にんようせい 妊孕性 への影響

がん治療には、手術、抗がん剤治療 (かがくりょうほう 化学療法)、ほうしゃせんちりょう 放射線治療、ぞうけつかんさいぼういしょく 造血幹細胞移植

などがあります。治療により将来、子供をもつことができなくなる可能性があります

す。これを「にんようせい 妊孕性の しょうじつ 消失」といいます。

3. 妊孕性温存療法について知る

がん治療によって妊孕性に影響が予想される場合に、事前に卵子や精子、卵巣を凍

結保存しておくことを「にんようせいおんぞんりょうほう 妊孕性温存療法」といいます。あなたが受ける予定のが

ん治療が、妊孕性に影響するのか、がん克服後に子供をもてるようにはどのような妊孕性温存療法が適切なのか、相談することが大切です。

4. 「がんと生殖医療カウンセリング」へご紹介します。

琉球大学病院の産婦人科では、妊孕性温存療法についての専門外来を開設しています。あなたが受ける予定のがん治療が、妊孕性に影響するのか、がん克服後に子供をもてるようにはどのような妊孕性温存療法が適切なのか、がん治療の主治医と連携をとりながら検討していきます。

5. 納得した治療をうけるために

がん告知と同時に抗がん剤治療や放射線治療、あるいは手術などの治療を目前にし、頭の中が真っ白になり、将来子どもをもつことなど考える余裕はないかもしれません。しかしながら、がんは克服できる^{ちゅ}治療する時代となり、がん克服後に子供をもつことも可能となってきました。がん治療前に妊孕性温存療法について知っていたら、そのことを知った上で、ご自分の判断で納得した治療をうけていただきたいと思います。

_____ 年 月 日

_____ 病院 科

説明者 _____ 印

同席者 _____ 印

がんと生殖カウンセリング連携シート

患者氏名 _____ 年齢 _____ 歳

疾患名 _____ 進行期 _____

組織型 _____

- ・ 予後（生命予後、再発リスク；抽象表現可） _____
- ・ 予後の告知した相手： _____ 本人 _____ 配偶者 _____ キーパーソン（ _____ ）
- ・ 告知した内容： _____ すべて説明した _____ 予後については説明未 _____
- ・ 現在までの治療経過（手術、使用された抗がん剤名と投与量、放射線療法については照射部位と照射量を記載ください） _____

- ・ 今後予定される治療（手術、抗がん剤名、投与量、放射線治療、ホルモン療法などについて記載ください） _____

- ・ 治療開始予定時期（現在予定されている開始時期） _____
- ・ 治療開始遅延許容期間（妊孕性温存療法を行う場合でも、がん治療を開始しなければいけない時期など） _____

- ・ 妊孕性温存・妊娠について

主治医から見た妊孕性温存の推奨程度： _____ 推奨 _____ 消極的 _____ どちらとも言えない _____

がん治療後の妊娠時の問題点 _____

連絡先：琉球大学病院 産婦人科 生殖内分泌グループ

〒903-0215 沖縄県西原町字上原 207 番地

TEL 098-895-1177

妊孕性温存療法 「県内共通文書」及び「がんと生殖カウンセリング連携シート」
電子カルテ掲載及び周知状況等について

	電子カルテ		院内周知		医局会への報告		院内メール		その他・備考
	共通文書	カウンセリング連携シート	共通文書	カウンセリング連携シート	共通文書	カウンセリング連携シート	共通文書	カウンセリング連携シート	
北部地区医師会病院	○								* 空欄 確認中
県立中部病院	○	○	○	○	○	○	未	未	
那覇市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	
県立宮古病院	○	○	○	○	○	○	○	○	
県立八重山病院	○	○	未	未	○	○	未	未	
琉球大学病院	○	○	○						* 空欄 確認中

沖縄県内の各医療機関での出張研修会について

	病院	日時
1	北部地区医師会病院	7月16日(木) 17:30～ 開催済
2	県立中部病院	9月7日(月) 新型コロナウイルスの影響により 延期・再調整中
3	那覇市立病院	8月17日(月) 新型コロナウイルスの影響により 延期・再調整中
4	県立宮古病院	8月25日(火) 新型コロナウイルスの影響により 延期・再調整中
5	県立八重山病院	9月15日(火) 新型コロナウイルスの影響により 延期・11/17にて再調整中

他医療機関(沖縄県院内がん登録集計報告書2017年 参照)

	病院	日時
1	中頭病院	9月30日(水)18:00～
2	中部徳洲会病院	未定
3	国立病院機構沖縄病院	未定
4	ハートライフ病院	未定
5	浦添総合病院	未定
6	大浜第一病院	未定
7	沖縄赤十字病院	未定
8	沖縄県立南部医療センター・ 子ども医療センター	未定
9	沖縄協同病院	未定
10	南部徳洲会病院	未定
11	豊見城中央病院	未定

	がん種	日時
	乳房	未定
	脳・中枢神経系	未定
	血液腫瘍	未定
	小児がん	未定

講師:周産母子センター教授 銘苺桂子先生

対象:医師・メディカルスタッフ

主催:各病院

共催:沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会

後援:琉球大学病院がんセンター

第2回

小児・AYA世代のがん患者に対する

妊孕性温存療法

に関する研修会

がん克服後に子供を授かる可能性をのこすために何が出来るか

3/12 (木) 午後5時～6時

場所

琉球大学医学部臨床研究棟 1階
大学院セミナー室

講師

高江 正道 先生

【聖マリアンナ医科大学 産婦人科 講師】

座長

銘苅 桂子 先生

【琉球大学医学部附属病院 周産母子センター 教授】

対象

医師・メディカルスタッフ

参加費無料・申込不要



主催：沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 共催：琉球大学医学部附属病院がんセンター

お問い合わせ

琉球大学医学部附属病院がんセンター 石川

TEL: 098-895-1369 FAX: 098-895-1497

琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか

- 紹介状に加えて、当科がほしい情報について簡単な「情報提供書」の書式を銘苅委員の方で作成するので、そちらの書式も同時に各病院の電子カルテに入れてもらい、癌治療医が「妊孕性温存療法説明書」と「情報提供書」を同時に使用できるようにご対応して頂く。
- 担当医を通じての紹介ではなく、これまで通りシエントを通して、「がんと生殖医療外来」へ予約を入れてもらうことで紹介とする。
- 各病院担当医から電話連絡は必要なし。必要時は当科から癌治療医へ電話連絡。

保護者さまへ



～原籍校に戻るこどもたちのこと～
より良い学校生活を送るために

原籍校で困っていることはありませんか？

支援学校~~院内学級~~から原籍校へ！

長くてつらい治療、入院生活がやっと終わりました。まだまだ病気の不安はあるかもしれませんが、ひとまず退院し、原籍校に戻れるようになりました。~~院内支援学校~~院内学級の先生、原籍校の先生、主治医、看護師とのお話し合いは済んだでしょうか。久々の登校、学校生活が始まります。お子さんも親御さんも多くの不安を抱えていることでしょう。

案1：期待とともに、不安を抱えていないでしょうか？

このようなことはありませんか？

退院後、まだまだ身体は万全ではないでしょう。体力が落ちていたり、食欲がなかったり、また脱毛や色素沈着、手術の影響など見た目の変化もあります。

- 小学校：復学しても欠席(病院通院、入院、体調不良等)することが多く、勉強についていけないが・・・
- 中学校：定期試験を体調不良で受けられなかったりした場合は成績の評価はどうなるのか、受験にむけてどうすればいいのか・・・
- 高校：単位を取得できない。欠席扱いにならない時はどうすればいいのか・・・
- 容姿が違うことで、いじめにあっているようだ・・・
- 保育園、幼稚園：先生達にどう伝え、連携を取るか・・・

案2：きょうだい支援について、相談窓口等、保護者へ明確なお伝えできる情報があれば、割愛してはいかがでしょうか。

きょうだいのこと

□ 児がんの本人だけではありません。長い闘病生活は、家に残されたきょうだいにも影響を及ぼします。

- きょうだい精神背的に不安定になることがあり、その場合どこに相談すればいいのか・・・
- 患児の体調が悪くて親が付き添いをしないといけないときに、誰が他のきょうだいを面倒みるのか・・・

支援体制について

さまざまな問題があります

以上のように学校、家庭において、たとえがん治療が終了し原籍校へ復学可能となっても、がん患者特有の問題が山積しています。現状でも、医療側、院内支援学級、原籍校が連携して対応していますが、十分ではないと感じていらっしゃることでしょう。

案3: 原籍校へ復学する際、学校や家庭での生活が過ごしやすくなるよう、医療側、院内学級、原籍校が連携して対応しています。それでも、おかれた環境や心・身体の状態は一人ひとり違います。支援が不十分だと感じている方がいらっしゃるかもしれません。

私たちは支援をおしみません

退院後も、小児がんのお子さん、親御さん、きょうだいの支援を継続しておこなうことが、私たち医療従事者、教育者の大切な役目だと思っています。日常生活、学校生活、きょうだいのお困りのこと、お悩みのことがあれば、いつでもご相談ください。

相談窓口について

✓ お子さんの体調、日常生活について

- 琉球大学病院小児科

✓ 学校生活について

- 案4: お子さんに必要な支援の内容により、学級内にとどまらず、学年、学校全体、あるいは外部機関等を含めた対応が必要となる場合もあります。まずは、お子さんの担任の先生や特別支援教育コーディネーター、保健室の先生などにご相談ください。

✓ こころの問題について

-

✓ その他の悩み事について

案5: 相談窓口の切り口については、「体調、日常生活」「学校生活」「家庭支援」の3点に絞ってはいかがでしょうか？



【添付資料】

修正案の補足説明

(1) 語句の修正について

「支援学校」「院内支援学校」「院内支援学級」の表現が使用されていますが、子どもと保護者が一番馴染んでいる「院内学級」に統一したほうがよいのでは。

(2) 文章の修正について

案1： 「不安を抱えているでしょう」の部分で、断定のニュアンスが強く伝わる気がします。順調に学校生活を過ごしている子もいるはずなので、表現を変えてみてはと考えます。

案2： きょうだい支援について

- ① 一般的には、家庭支援の問題が大きいかと思いますが、その解決は福祉の問題ではないでしょうか？ 福祉サービスは市町村によって異なると思われるので、パンフレットで本件に関する情報を提供されたいのであれば、行政の専門の方にご意見をうかがってはいかがでしょうか。 病院の地域連携室の方は、そのような患者さん家族の支援先も案内できるのでしょうか？
- ② きょうだいの方について、学校生活上の問題があれば、在籍校で支援していただくのが基本だと考えます。(本人の支援と同様と考えます。)

案3： 当文章も、全ての保護者が不満を感じているニュアンスが強いので、表現を変えてみてはと考えます。

案4： 学校により、支援体制構築のアプローチの方法が異なると思われるので、どのケースでもキーパーソンとなるであろう2名を提示しました。

案5： 相談窓口の紹介について、「体調・日常生活」「学校生活」「家庭支援」以外の問題は、学校で子どもの支援を検討する過程で、こころの問題があれば、適切な支援方法、支援者・機関等を探る あるいは、外来診察時等に、病院から心療内科を紹介する等、上記3つについての問題を解決する中で対応してもよいのではないのでしょうか。